

# 浪速淀川名物!



キビレでは良型、大型の部類に入る40cmクラス。海からすぐ、河口に近いポイントでは、このサイズはまれ。20~30cmの小型がジャンジャン当たって楽しませてくれる!



潮が差し込んで潮位が上がれば、こんな突堤間の浅いポイントにもキビレが入ってくる!



「根魚スペシャル・チヌボンボン」に代表されるチヌ・キビレゲームに特化したルアーは、空中では重くよく飛ぶが、水中では比重の関係でナマリのジグヘッドにくらべて沈下がスロー。底からも浮かせやすく根掛かりが少ないのが特徴だ。通常は単体で使用せずにフックにワームなどをトレーラーとしてセットする



キビレゲームは夕方から夜半までの釣り。短い時間をライトに楽しもう



タックルは近年、チヌゲーム専用のもので釣具店に並んでいるが、ライトなシーバスロッド、バスロッド、硬めのメバリングロッドなどでも大丈夫。リールはスピニングの2500番クラス。ラインはPEの0.6~0.8号。これにショックリーダーとしてフロロカーボンラインの2.5号を50~60cmつなぐ。

釣り方は簡単。「根魚スペシャル・チヌボンボン」など、底スル系と呼ばれるチヌ・キビレゲーム専用のルアーを使って底を引いてくるだけだ。ジグヘッドでも釣りは可能だが、やはり底スル専用は水中での比重が小さく根掛かりしにくいというメリットがある。基本となるのは59サイズ。これにトレーラーとしてチヌ用ワームをセット。

キャストして底まで沈めたら、ゆっくりリールを巻いてゴツゴツと底の状態を感じながらアタリを待つ。途中で何かに引っ掛かったように感じたら、ロッドを軽くあおってルアーを持ち上げる。この動作が誘いにもなるので、その途端にアタリが出ることも多い。

底が分かりにくいようならルアーのウエイトを重くし、逆に頻繁に根掛かりするようなら軽くするのがコツ。またロッドを立てて気味にして引くと根掛かりしにくくなるので覚えておこう。

アタリはグイッとサオ先を引いたくる派手なものから、モゾモゾと分かりにくいものまでさまざまだが、とにかく違和感を感じたら積極的にアワセを入れよう。それでフッキングしない場合はルアーを軽くし、よりゆっくり引くように。底を引くだけで反応がない場合はルアーを持ち上げて落とすとすりフット&フールも効果的だ。

# 汽水域のキビレ遊び



梅田、大阪駅周辺。日が暮れると夜景をながめながらの釣り!

投げて沈めて底をズルズル引くだけでガツン!  
タマヅメにライトに楽しむルアーゲームのススメ

右岸側、下流のポイント。奥に見えるのは阪神高速5号湾岸線。潮が満ちてくれば突堤間が絶好のポイント



上の写真のほぼ対岸。こちらにも突堤はあるが短いので、沖にキャストしリップラップの際やブレイクを中心に探る



淀川下流部はキビレの宝庫。20~30cmの小型を数釣りなら河口に近い最下流部。大堰付近にまで上るとサイズはよくなるが数は少ない  
淀川の河川内は10尾に1尾の割合だがチヌも釣れる



淀川の最下流部は大阪市内を流れる大阪湾奥に注ぐ。河口から淀川大堰までの約10km間が汽水域で、さまざまな魚たちの宝庫だ。スズキの多さは半端ではなくシーバスフィッシングのメッカだし、秋はハゼ釣りに興じる家族連れも。最近ではテナガエビをねらう人の姿も多くなった。そして断然、淀川汽水域を代表する魚といえるのがキビレだ。もちろんチヌもいるのだが割合からいうとキビレ9に対してチヌ1といった感じ。

そのキビレをルアーでねらうゲームフィッシングがおすすりだ。簡単な釣りなのにスリリングなのがいい。とにかく都会の真ん中、安近短でエンジョイ可能。釣りをするのは日没のころから、ほんの2~3時間でOK、電車の駅からも近くアクセスも最高。ただし両岸とも車の進入ができず、土手にも駐車スペースがないためマイカーの場合は、周辺のコインパーキングを利用すること。

淀川のキビレは冬場も釣れないことはないが、例年4月の声を聞くころに大阪湾から川に入り始め5月になれば本格化。夏を過ぎて9~10月までが釣りやすい。

淀川両岸の水深は平均1~2mと浅く、干潮時は干上がってしまふ場所も多いが、逆に潮が満ちてくれば元気なキビレが、ついさっきまで陸地だった場所にも入ってきてくれる。なので夕方から夜半にかけて満潮を迎える潮回りの日を選ぶのがミソ。

ポイント的には下流部ほど魚は多く、アタリも頻繁に出るがサイズは小さめ。40cmをオーバーするような良型をねらうなら、できるだけ大堰に近い上流を釣るべきだが、アタリは極端に少なくなってしまう。